



平成23年5月20日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 富田芳男
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部専任部長 徳升聡司
(TEL. 03 - 3216 - 4561)


平成23年3月期 決算説明会資料

当社では、本日5月20日、アナリスト向けに平成23年3月期決算説明会を開催いたします。

平成23年3月期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成23年3月期 決算説明会

 関東電化工業株式会社
平成23年5月20日

1

説明内容

1. H23/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ピニリデン、シクロヘキサノン等
精密化学 品事業	フッ素系 製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、モノフルオロメタン、フッ化カルボニル、酸化カルボニル、六フッ化リン酸リチウム、フルオロエチレンカーボネート、排ガス処理装置(エフトール)等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

事業セグメントの変更

H22年/3月期まで		H23年/3月期より	
基礎化学 品事業	無機製品	基礎化学 品事業	無機製品
	有機製品		有機製品
精密化学 品事業	鉄系製品	精密化学 品事業	フッ素系製品
	フッ素系製品	鉄系事業	鉄系製品
化学設備関連事業		商事事業	関電興産(株)
その他事業		設備事業	(株)上備製作所

関東電化工業株式会社

4

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資 比率%	H23/3末 個別売上高	対前期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	6,188	937	化学工業薬品の販売および 容器整備、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	3,879	659	化学工業用設備の製作・加 工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	930	52	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA (株)	2 億ウオン	90.0	5,020	360	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份 有限公司	7 百万NTドル	100.0	1,665	207	フッ素系製品の販売

合計	17,684	1,391
----	--------	-------

関東電化工業株式会社

5

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H22/3 (倍率)	H23/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H22/3	H23/3	増減	増減率 (%)
売上高	380 (1.14)	403 (1.14)	22	6.0	333	353	19	5.9
営業利益	17 (1.67)	39 (1.17)	22	131.6	10	33	23	231.3
経常利益	15 (1.96)	36 (1.14)	20	133.6	7	31	23	301.1
当期純利益	8 (1.57)	16 (1.10)	8	101.4	5	15	9	188.0

関東電化工業株式会社

6

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H22/3	H23/3	差額
売上高	380	403	22
営業利益	17	39	22
当期純利益	8	16	8

(1) 売上高増加(22億円)

- ・基礎化学品事業部門は、一部製品の撤退等により減収(7億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売数量の増加により増収(+23億円)
- ・鉄系・商事・設備事業部門は、販売数量や設備工事の増加により増収(+6億円)

(2) 営業利益増加(22億円)

- ・基礎化学品事業部門は、コストダウン効果等により増益(+1億円)
- ・精密化学品事業部門は、売上高の増加により増益(+19億円)
- ・鉄系・商事・設備事業部門は、売上高の増加により増益(+1億円)

関東電化工業株式会社

7

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H22/3	H23/3	差額
売上高	85	78	7
営業利益	5.2	6.3	1.1

- ・売上高は、シクロヘキサンの撤退やシクロヘキサノンの大幅な販売縮小、か性ソーダの販売価格低下等により、前期に比べ減収となった。
- ・営業利益は、コストダウン効果や価格修正効果等により、前期に比べ増益となった。

関東電化工業株式会社

8

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H22/3	H23/3	差額
売上高	229	253	23
営業利益	7	27	19

- ・三フッ化窒素は、販売数量の増加により、前期に比べ増収となった。
- ・六フッ化タンゲステンおよびヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、販売価格の低下はあったものの、販売数量の増加により、前期に比べ増収となった。
- ・電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の増加により、前期に比べ増収となった。フルオロエチレンカーボネートは、販売数量は増加したものの、販売価格の低下により、前期に比べ減収となった。
- ・営業利益は、売上高の増加により、前期に比べ増益となった。

関東電化工業株式会社

9

鉄系・商事・設備事業部門

(単位:億円)

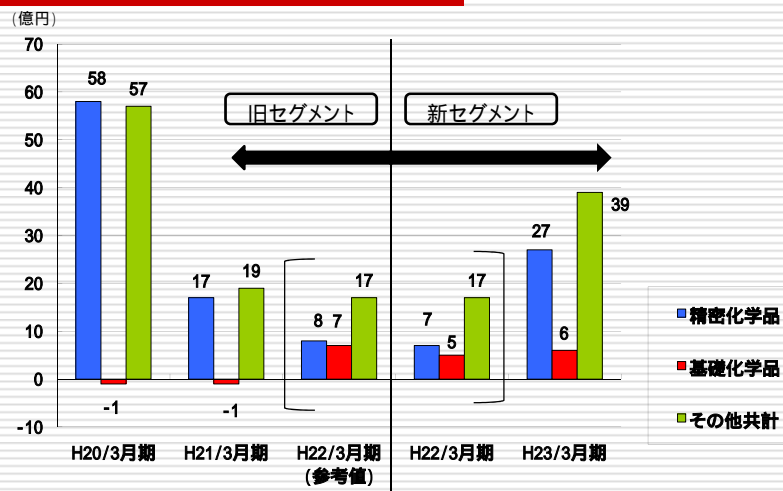
	H22/3	H23/3	差額
売上高	65	71	6
営業利益	4.2	5.9	1.7

- ・鉄系事業は、キャリアーの販売数量の増加により、前期に比べ増収増益となった。
- ・商事事業は、連結子会社である関電興産における化学工業薬品販売の増加により、前期に比べ増収増益となった。
- ・設備事業は、連結子会社である上備製作所における請負工事の増加により、前期に比べ増収増益となった。

関東電化工業株式会社

10

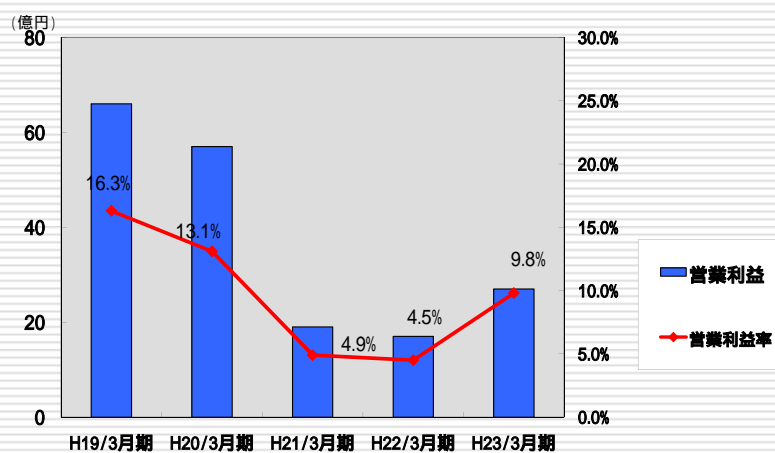
セグメント別営業利益の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

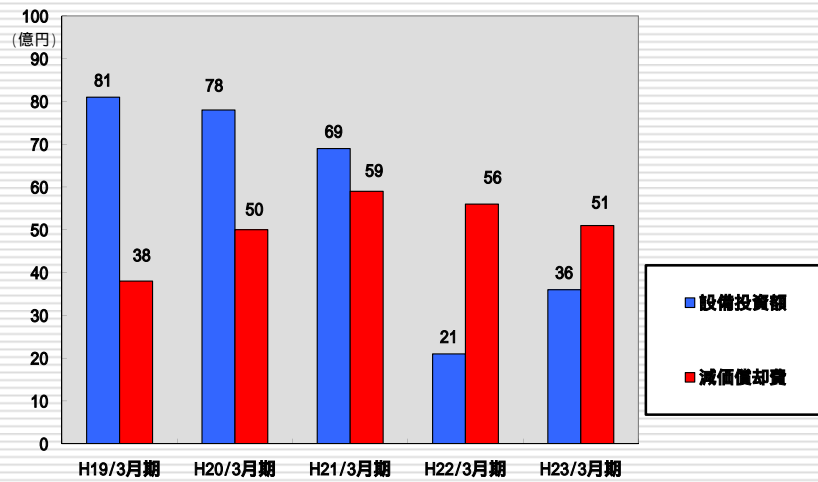
営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

12

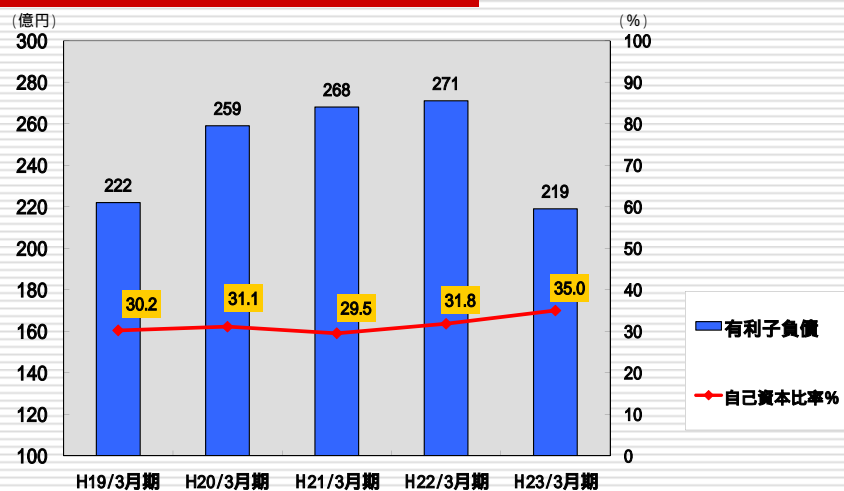
設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

13

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

14

説明内容

1. H23/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

東日本大震災の影響

- 地震発生と同時に製造設備が緊急停止したが、人的被害はなく、建物・設備への影響は非常に軽微であった。
- 定修の前倒し等を実施し、電力問題の影響を最小限に止めた。
- 計画停電の影響で3月の渋川工場の稼働率が低下したため、特別損失3億円を計上した。
- 夏期における電力の削減に対し、生産計画の見直し等、限られた電力のなかで、最大限の生産数量を確保するように調整を行っている。

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H23/3	H24/3	差額	H23/3	H24/3	差額
基礎	78	76	2	6	8	1
精密	253	265	11	27	17	10
その他	71	74	2	5	5	0
合計	403	415	11	39	30	9

設備投資	36	73	36
減価償却	51	53	1
研究開発費	11	12	0

その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

為替レート見込:83円/\$

関東電化工業株式会社

17

セグメント別業績予想(連結) 上期下期比較

(単位:億円)

	H24/3売上高			H24/3営業利益		
	上期見込	下期見込	差額	上期見込	下期見込	差額
基礎	36	40	4	3	5	2
精密	125	140	15	4	13	9
その他	34	40	6	2	3	1
合計	195	220	25	9	21	12

設備投資	28	45	17
減価償却	25	28	3
研究開発費	6	6	0

その他は、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

18

中期経営計画数値目標(連結)との対比

(単位:億円)

	H23/3実績	H24/3計画	H24/3見込	H25/3計画
売上高	403	460	415	500
営業利益	39	47	30	65
経常利益	36	47	28	65
減価償却費	51	57	53	53
設備投資額	36	56	73	43

関東電化工業株式会社

19

設備投資の状況・今後の計画

□半導体・液晶用特殊ガス

三フッ化窒素能力増強 (H23.1: 2,700t 3,000t/年)

三フッ化窒素能力増強 (H24.1: 3,000t 3,500t/年)

四フッ化炭素能力増強 (H24.5: 1,000t 1,100t/年)

□電池材料

六フッ化リン酸リチウム設備増強 (H23.5: 1,300t 2,000t/年)

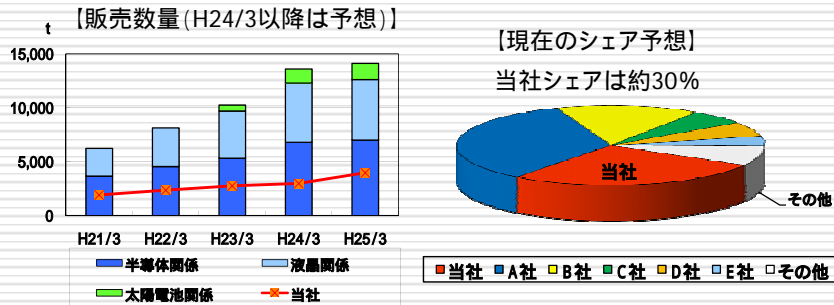
六フッ化リン酸リチウム設備増強 (H24.3: 2,000t 3,000t/年)

関東電化工業株式会社

20

- 主な製品の見通し - 三フッ化窒素 (NF3)

- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス。
- 今後の半導体・液晶の生産量増加に伴い、三フッ化窒素の需要は増加する。また、太陽電池向けの需要も期待される。
- 需要増加に対応するため、製造能力を H24年1月に3,500t/年にアップ。

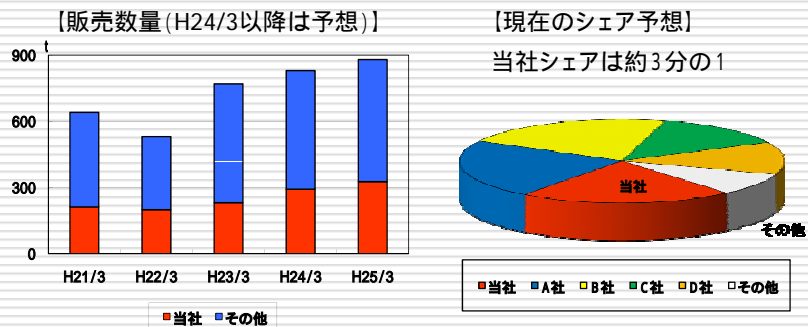


関東電化工業株式会社

21

- 主な製品の見通し - 六フッ化タングステン (WF6)

- 半導体用配線材料ガス。
- 半導体の生産量に伴い、需要は増加する見込み。
- H20年3月に製造能力を300t/年に増強した。

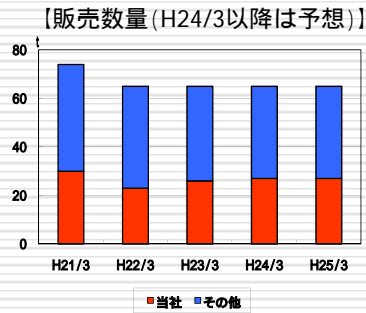


関東電化工業株式会社

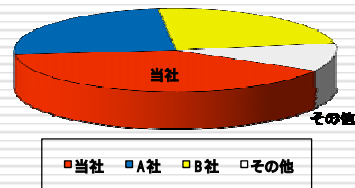
22

- 主な製品の見通し - ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C4F6)

- 半導体酸化膜微細エッチング用ガス。
- 特徴: 高アスペクト比エッチングが可能。短い大気寿命により温暖化に対応。
- 微細加工の伸展に伴い、需要が拡大している。
- 需要に対応するため、H19年11月に製造能力を50t/年に増強した。

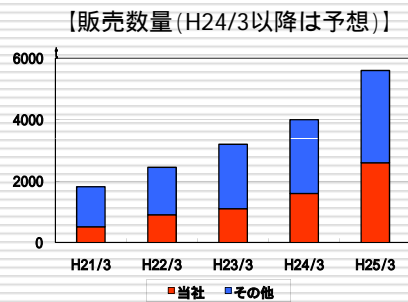


【現在のシェア予想】
当社シェアは約40%

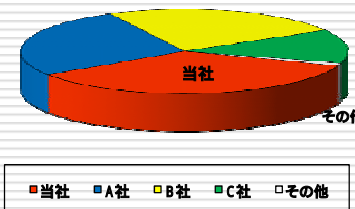


- 主な製品の見通し - 六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質。
- 携帯電話・ノートPC向け以外の用途先にも需要が拡大している。
- 今後、EV等の車載向けや大型蓄電池向けの需要が期待される。
- H23年5月に製造能力を2,000t/年に増強した。
- さらに、H24年3月に製造能力を3,000t/年に増強予定。



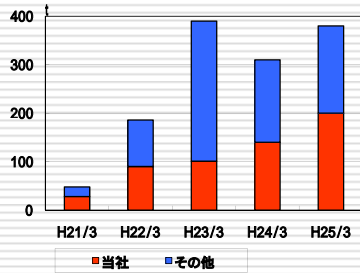
【現在のシェア予想】
当社シェアは約40%



- 主な製品の見通し - FEC (フルオロエチレンカーボネート)

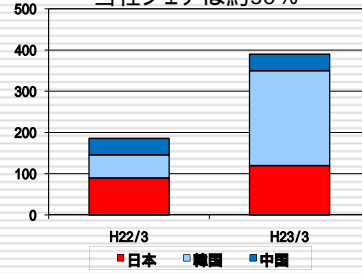
- リチウムイオン二次電池の電解液の添加剤。
- 性能: リチウムイオン二次電池の長寿命化・低温特性の向上。
- H22年5月に製造能力を250t/年に増強した。

【販売数量 (H24/3以降は予想)】

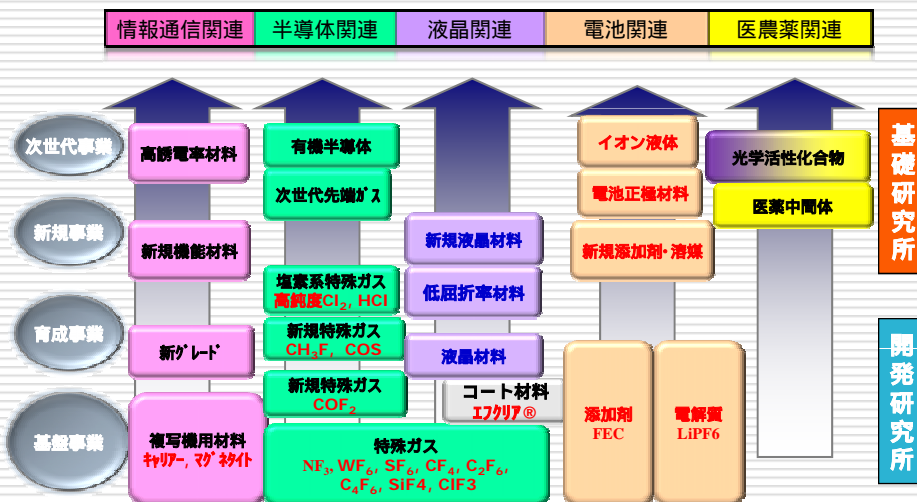


【地域別需要量】

当社シェアは約30%



当社の目指す事業方向



新規製品開発

- H22年4月より上市
 - ・「フッ化カルボニル(COF2)」環境対応のクリーニングガス
 - ・「モノフルオロメタン(CH3F)」半導体微細加工用エッチングガス
 - ・「硫化カルボニル(COS)」アモルファスカーボンマスク層微細加工用エッチングガス
- 「ホウフッ化リチウム(LiBF4)」LiB用新規電解質
- 半導体用高純度塩素
- 電池材料(添加剤、イオン液体)
- 有機半導体材料、新規液晶材料、医薬薬中間体
- 10年後を見据えたコア技術の開発。

環境変化に適応できる創造的開発型企業へ

27

海外拠点の新設

□ 中国現地法人の設立

中期経営計画に従い、中国(上海)にフッ素系製品等の販売および輸出入を行う販売子会社を設立する。

商号	科地克(上海)貿易有限公司
所在地	中華人民共和国上海市
設立の時期	平成23年6月中の設立を目途とする
出資比率	当社100%

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。